

ひ、佛敎でも他の宗教でも排斥するのであります。それは物の觀やうでありますから、これが宗教だと言つても一概に悪くありませんが、併し宗教には定義もあれば宗教の本質がある。宗教は永遠の生命を認め、さうして宇宙絶對の神なり佛なりを認めて、兩者の結びつきによつて一切の教行が導かれるので、信仰を本にして居るものである。さうして見ると、この勅語に依つて、吾等生命の前途が如何に導かるべきものか、宗教の實在の觀念、感應の觀念といふ様な事柄は如何に導かるべきものかといふことは、この勅語を以て説明することは出来ないのである。

そこで勅語道といひ、勅語宗といふことを言ふ者は、これは亦餘りに教育勅語の趣旨を濫用するものであると私は考へる。我國の文化は勅語を大本として大切な綱格は示しになつて居るけれども、併し教育勅語にも示しなさらないうて、御製なり他の詔勅にも示しになつて居る事も多々あるので、若し一切萬端教育勅語で事が足りて居るならば、軍人の勅諭も要らない、戊申詔書も要らない、醫療救恤の詔も要らない、多

くの御製も要らない、教育勅語のみあれば宜いといふ事になる。併し此の勅語は大切には違ひないけれども、簡單なる御文章でその意味を明かに示しにならぬ點もあるのである。それは他に示されたる聖旨を遵奉致して、さうしてこの教育勅語の聖旨を直接間接に助け成して、この御趣意が成べく廣い意味に於て、過ちなき意味に於て徹底するやうに、正當なる解釋をして行かなければならぬと思ふのであります。及前には固陋なる狹隘なる解釋をして、少々具合が悪くなつて來れば、この中に宗教があると言つて他の宗教を拒斥するといふ様な、さういふ陋劣なる態度は宜しくないと思ふ、是は餘程重大なる事でありまして、教育勅語が宗教だと言ふ時、日本の國家を危くする災が其處に包藏されると思ふ、所謂皇室を以て宗教の中心とする時には、他の宗教が起つて參りますと、遂にその國家を滅亡に導く、羅馬が亡びたのはそれが爲であります。露西亞が亡びたのもそれが爲であります。皇室を以て直に宗教とする時、それと相異なる主義主張はその國家を呪ふに至る、皇帝宗教は非常に恐るべきこと